

男性看護師の清潔ケアに関する女性患者の思い

東病棟 9 階 ○福塚 明 鈴木尚美 松尾寛子 高瀬靖子
橋 真麻 出戸亜沙子 福間明美

key word : 男性看護師 女性患者 清潔ケア 思い

はじめに

近年男性看護師数は増加し2000年には4万人を突破している。また、男性看護師の一般病棟への配属が増加している¹⁾中で、井手らはケア提供者には男性患者も女性患者も女性看護師を望む傾向にある²⁾と述べ、多間らは男性看護師の約7割がケアを断られた経験がある³⁾と述べている。研究者自身も女性患者の羞恥心の軽減に配慮し清潔ケアを行っていたが断られる経験をした。しかし、当初断っていたが後にケアを受ける女性患者もいた。多間らの男性看護師を対象とした研究結論の中で、最初ケアを断られたとしても、信頼関係を築くことや、男性看護師への理解を深めることによりケアを受け入れてもらうことが可能である³⁾と述べている。

先行研究では女性患者の男性看護師による清潔ケアに関する思いをアンケートなどで調査した研究はあるが、女性患者から直接思いを引き出した研究はなかった。

そこで男性看護師が清潔ケアを提案した女性患者の思いを面接で調査し知ること、女性患者をより理解し清潔ケアを行うことが看護の質を高められると考え研究に取り組んだ。

I. 研究目的

女性患者との面接にて男性看護師の清潔ケアに関する女性患者の思いを知る。

II. 研究方法

1. 対象：入院中男性看護師が清潔ケアを提案した女性患者
2. 期間：平成17年4月～平成18年8月
3. 調査方法：対象者に対して半構成的面接を行う。対象者の許可を得て面接内容を録音し、逐語録を作成する。
4. 分析方法：質的研究アプローチの手順に沿って分析する。逐語録を読み返し、同じ意味付けと思われる文脈をカテゴリー化した。
5. 倫理的配慮：研究の目的・内容・方法を説明し得られたデータは研究以外の目的には使用しないこと、プライバシーを守ること、個人が特定されない

こと、同意しなくても診療や看護に不利益がないこと、研究者には男性看護師がいることを説明し、同意書へのサインをもって同意を得た。面接は研究者である女性看護師2名で行った。

6. 用語の定義：本研究では身体の清潔を保つ行為の中で陰部を含む全身清拭、入浴、部分浴、洗髪、更衣を清潔ケアとした。

III. 結果

1. 背景：対象者7名で5名は清潔ケアのいずれかを受け2名は清潔ケアを受けていないと答えた。平均年齢65.4歳、平均入院期間3.5ヶ月、退院から面談までの平均期間8.7ヶ月である。

2. 研究方法に基づき分析した結果、男性看護師の清潔ケアに関する女性患者の思いについて12のカテゴリーが抽出された。【】はカテゴリー、『』はサブカテゴリー、[]はコードを示す。(表1参照)

【羞恥心】

『抵抗感は羞恥心である』『異性という抵抗感がある』『男女問わず陰部ケアには抵抗感がある』より羞恥心から清潔ケアの抵抗感を感じており陰部に関しては男女問わず抵抗感を感じていた。

【自分のことは自分でしたい】

『他人からケアを受けたくない』『自分でできるときは自分でしたい』と自分が普段していたことや自分でできることは自分でしたいという気持ちを持っていた。

【ケアを受けたほうが楽】

『安楽だからしてもらおう』とケアを受けた方が安楽であると思っていた。

【男女を問わない専門職】

『専門職であり性差は感じない』『男女平等の時代という認識』と看護師を男女問わず専門職と認めようとする思いがあった。

【男性看護師の評価】

『男性看護師の人柄に好印象を持った』『人柄によって印象は違う』『態度が違うと違和感がある』『信頼できる仕事ぶりだった』と看護師としての技術や姿勢、態度を評価していた。

【男性看護師の存在】

『男性看護師は少ない』『看護師は女性というイメージ』と男性看護師は少ないため看護師は女性というイメージを持っている。

【男性看護師は清潔ケアをしない】

『男性看護師は清潔ケアをしないと思っていた』『仕事内容は違うと認識していた』と男性看護師は女性看護師と仕事内容が違い清潔ケアを行わないと思っていた。また、男性看護師は清潔ケアをしないと思っていたので『上手にできるのか不安である』と不安を感じていた。

【お互い気を遣っている】

[清潔ケアの際男性看護師も女性患者もお互いに気を遣っている]というコードから女性患者は男性看護師が女性患者を気遣って清潔ケアをしていると感じている。

【気持ちの整理がつく】

『気持ちを割り切る』『慣れ』『仕方がないと思う』といろいろな気持ちを整理した上で清潔ケアを受けていた。

【選択の余地がない】

『清潔ケア提供者の選択の提案がない』と清潔ケア提供者の女性看護師への変更について提案がなく、選択できなかった。

【清潔ケアは女性看護師が良い】

『男性看護師の清潔ケアを受けて嫌だった』と男性看護師の清潔ケアを受けて、女性の方が良いと思っていた。

【満足な清潔ケア】

『清潔ケアを受けて満足した』と男性看護師から清潔ケアを受けて満足していた。

V 考察

今回の研究で得られたカテゴリーより女性患者の思いには、女性患者が男性看護師から清潔ケアを受ける自分の思いと、清潔ケアを提供する男性看護師への思いがみられた。

女性患者が男性看護師から清潔ケアを受ける自分の思いには【羞恥心】【自分のことは自分でしたい】【ケアを受けた方が楽】というカテゴリーが抽出され、清潔ケアを提供する男性看護師への思いには【男女を問わない専門職】【男性看護師の評価】【男性看護師の存在】【男性看護師は清潔ケアをしない】【お互い気を遣っている】というカテゴリーが抽出された。

清潔ケアを受ける自分の思いについて【羞恥心】では『異性という抵抗感がある』『男女問わず陰部ケアには抵抗感がある』というサブカテゴリーが抽出

された。男性看護師が異性であることから生じる羞恥心とともに陰部のように羞恥心を伴う部位であれば男性看護師であっても女性看護師であっても羞恥心を感じている。

【自分のことは自分でしたい】では『自分でできる時は自分でしたい』と、セルフケアの欲求を表している。女性患者は、自分の心身の状態から清潔ケアを自分でできるかどうかを判断する。そのため男性看護師が安全・安楽のために必要と思い提供しようとした援助を女性患者は自分でしたいと感じる場合がある。女性患者が依存的であったり自分でできなかったりすれば【ケアを受けた方が楽】と思う場合もある。

次に清潔ケアを提供する男性看護師への思いについて述べる。【男性看護師の存在】は近年メディアで取り上げられる機会が増え、男性看護師の存在は世に知られるようになった。しかし、2000年の統計によると、総就業看護師に対する男性看護師の割合は4.0%でまだまだ少数派である。しかも男性看護師の配属は精神科を中心に人工透析やICU、手術室の特別な分野に偏っている¹⁾。そのため男性看護師の看護を受ける機会が少ない。今までに男性看護師に接したことの少ない女性患者は男性看護師を力仕事等の特別な業務をするとイメージし【男性看護師は清潔ケアをしない】という先入観を持つと考えられる。

しかし、女性患者は日々の男性看護師の看護から人柄、態度、技術などの【男性看護師の評価】を行い、その評価から信頼感を持ち男性看護師は女性看護師と変わらず、看護師であると認識する。また、男性看護師が女性患者に清潔ケアを行っている時に女性患者は男性看護師も「異性へ清潔ケアを行う抵抗感」や「気を遣って清潔ケアをしている」と察し【お互い気を遣っている】という思いを持ち、男性看護師の内面にも注目していることがわかった。

新山らの一般病棟における男性看護師の関わりと患者の認識の変化を調査した研究では「性別については意識していない、プロフェッショナルとして信頼している」⁴⁾という患者からの意見があり、小嶋らの男性看護師に対する入院患者の受容を調査した研究での「適切な看護が受けられれば性別は無関係」⁵⁾という患者の意見もみられた。小嶋らは研究結論の中で、「今後、男性看護師が女性看護師同様に専門性を発揮することで、患者自身のジェンダー・バイアスがなくなり男性看護師の受け入れが良くなると考えられる。」⁵⁾と述べている。本研究では女性患者に行う男性看護師の清潔ケアに関しても、【男女を問わない専門職】と認めようとする思いが裏付けられた。

このように女性患者は【羞恥心】【自分のことは自分でしたい】【ケアを受けた方が楽】のような清潔ケアを受ける自分の思いと、【男女を問わない専門職】【男性看護師の評価】【お互い気を遣っている】等のように清潔ケアを提供する男性看護師への思いの中で【お世話になると割りきる】【いろいろな気持ちがあったが自分で消化した】【一山越えてしまえば一緒】等の思いから、女性患者は葛藤し【気持ちの整理がつく】ことで清潔ケアを受けていることを改めて認識した。

一方、清潔ケアを受けたとしても気持ちの整理がつかないまま【男性看護師に遠慮した】【断れなかった】【忙しそうなので断らない】という理由で【選択の余地がない】と思い清潔ケアを受けた女性患者がいたこともわかった。また、一度【気持ちの整理がつき】清潔ケアを受けていても、【羞恥心】や【自分のことは自分でしたい】という思いは自分の体の状態や清潔ケアの内容などによって変化し、受けたくない思いが強くなる場合も考えられる。山田らは「従来女性看護師が身体接触を伴う処置を施す場合には鋭く指摘されてこなかったが、男性看護師が登場することでインフォームドコンセントに基づくケアがより厳しく追及されることとなるだろう。」⁶⁾と述べており、長期的に清潔ケアを行っている場合でも常に計画を説明し承諾を得ることが必要だと考える。

清潔ケアに関する女性患者の羞恥心やセルフケアの欲求を尊重することや清潔ケアを提供する際に男性・女性看護師の選択ができるよう確実に提案していくことが大切であり、今後の看護実践に生かしていきたい。

また、女性患者は男性看護師を専門職としてとらえており、質の高い看護を提供するために日々知識や技術の向上に努めることが重要であると考えられる。

IV. 結論

1. 女性患者が男性看護師の清潔ケアについて【男女を問わない専門職】と思い、受けていることがわかった。
2. 【羞恥心】や【自分のことは自分でしたい】思いは清潔ケアを受けたとしても持ち続け、状況に応じて違う。

引用文献

- 1) 日本看護協会出版会：平成14年看護関係統計資料集, p8-11, 2002.
- 2) 井手彩他：一般病棟における男性看護師のイメージに関する調査, 共済医報, 52(3), p246-249, 2003.

- 3) 多間嗣朗他：男性看護師のケアの受け入れに関する研究—当院男性看護師の面接から—：第37回看護研究発表論文収録集, p117-120, 2005.
- 4) 新山英和他：一般病棟における男性看護師の関わりと患者の認識の変化, 第35回看護管理, p369-370, 2004.
- 5) 小嶋亜紀子他：男性看護師に対する入院患者の受容, 第35回看護管理, p366-368, 2004.
- 6) 山田正巳：父性看護学確立への提言, 看護学雑誌, 66(11), p1018-1021, 2002.

参考文献

- 7) 橋本亘弘他：男性看護師のケアに対する女性患者の感じ方に関する調査, 社会保険医学雑誌, 43(2), p49-54, 2004.
- 8) 百田武司他：男性看護者のかかえる問題, 看護学雑誌, 62(3), p280-283, 1998.
- 9) 船橋恵子：看護とジェンダー, 看護教育, 42(1) p14-18, 2001.
- 10) 山崎裕二：男性看護職の感情の歴史点描—看護師社会におけるジェンダーの行方, 看護学雑誌, 66(11), p1012-1017, 2002.
- 11) 矢原隆行：男性看護職をめぐる課題と戦略—その隘路と可能性について— 看護学雑誌, 66(11), p1006-1011, 2002.
- 12) 白井瑞子他：男性看護師の職務意識に関する研究, 香川県医科大学看護学雑誌, 77(1), p55-63, 2003.
- 13) 明野伸次：男性看護師に対する業務評価・役割期待に関しての文献的考察, 北海道医療大学看護福祉学部紀要, 11, p95-100, 2004.
- 14) 看護は性差を超えられるか？社会の中の看護—ワーキング・スマートⅡ, 日本看護協会出版会, p39-46.

表1 男性看護師の清潔ケアを受ける女性患者の思い

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
羞恥心	抵抗感は羞恥心である 異性という抵抗感がある 男女問わず陰部ケアには抵抗感がある 高齢になっても羞恥心はある	抵抗感は羞恥心である 異性だから羞恥心がある 男性看護師から陰部ケアを受けるのはなおさら抵抗感がある 婦人科系の症状は分かってもらえないので言い難い 陰部のケアは嫌である 年をとってもしてもらうのは抵抗がある 高齢になれば、羞恥心が減る 若いうちは抵抗感がある
自分のことは自分でしたい	他人からケアを受けたくない 自分でできるときは自分でしたい 自分でできないから受けた	自分が動けなくなっても、他人からケアを受けるのは嫌だ 基本的には陰部ケアは男女問わず自分でしたい 自分でできるときに、清潔ケアをされると言われたら抵抗を感じる 女性看護師に入浴の見守りをされたのも嫌だった 自分でできないから、男女関係なくケアを受けた
ケアを受けたほうが楽	安楽だからしてもらう	清潔ケアをしてもらったほうが楽だから、男性看護師の清潔ケアを受けた
男女を問わない専門職	専門職であり性差は感じない 男女平等の時代という認識	専門職であり性差で抵抗感はない 清潔ケアを受けても、男女の差なし 同室女性患者のケアをする男性看護師を見たが、違和感はない 仕事内容は性差無し 仕事内容も同じだと知っていた 専門職であり性差をつけるのはおかしい 時代の流れで男女同じケアをするのだと思った 男性看護師も男女平等に増えればよいと思う 女性の社会進出を訴えている現代で男女差をつけるのは社会の流れに合わない 男性という理由で嫌だとは思わない
男性看護師の評価	男性看護師の人柄に好印象を持った 人柄によって印象は違う 態度が違うと違和感がある 信頼できる仕事ぶりだった	男性看護師の仕事内容に対して好印象を持った 力仕事が必要なときは有り難い 男性看護師の人柄によって受ける印象が違う 男性看護師の態度が自分に合わない違和感が出る 親切にしてくれて、信頼感が生まれた 優しく、献身的であればよい
男性看護師の存在	男性看護師が少ない 看護師は女性というイメージ	人数が増えれば評判ではない 男性看護師が少ないので看護師は女性というイメージ
男性看護師は清潔ケアをしない	男性看護師は清潔ケアをしないと思っていた 仕事内容は違うと認識していた 上手にできるのか不安である	男性看護師は清潔ケアをしないものだと思っていた 看護師の仕事内容は男女で違うと思っていた 他病院の男性看護師は洗髪以外の清潔ケアはしていなかった 最初はケアが上手にできるのか不安に感じた
お互い気を遣っている	清潔ケアの際男性看護師も女性患者もお互いに気を遣っている	清潔ケアの際男性看護師も女性患者もお互いに気を遣っている
気持ちの整理がつく	気持ちを割り切る 慣れ 仕方がないと思う	お世話になると割り切る いろいろな気持ちがあったが、自分で消化した 一山越えてしまえば一緒 慣れてきた 男性看護師に関わったことで今後男性看護師に対して抵抗感を持たないだろう 入院した以上、仕方がない
選択の余地がない	清潔ケア提供者の選択の提案がない 断れなかった	女性看護師のケアが選択できるという提案がなかった 入浴日に男性看護師が担当だった 男性看護師に遠慮した 忙しそうなので断らない 断れなかった
清潔ケアは女性看護師が良い	男性看護師の清潔ケアを受けて嫌だった	男性看護師は清潔ケアをしないほうがよい 技術面の不足を感じ嫌な思いをした
満足な清潔ケア	清潔ケアを受けて満足した	男性看護師の清潔ケア技術が充実していた 男性看護師の清潔ケアの技術が良かった 男性看護師が啓発用ケアを行うので感謝した